

第 1 回
愛知県自転車活用推進計画
検討委員会

自転車は、

身近な交通手段

地球環境問題

渋滞対策

高齢者の移動手段の確保

コンパクトシティの形成

災害時における移動手段

健康長寿社会の形成

スポーツを通じたQOLの向上

健康増進

メンタルヘルスの保持増進

自転車観光

観光地域づくり

現代社会が直面する多様な課題に対する解決策となるもの

しかし一方で、

原則車道、歩道は徐行

安全対策

ルールの遵守

車道を走るのは怖い

自転車の活用に向けて解決すべき課題も多い

愛知県自転車活用推進計画では、関連計画と連携し、

自転車利用の増進を目指し、

- 自転車の活用に向けて現状と課題を確認し
- 活用に向けた具体的な施策を提示する

計画期間：第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）を見据え**2026年度**まで。
計画期間の中間となる**2022年**に見直し。

(本日) 第1回 愛知県自転車活用推進計画検討委員会

- ・ 計画の背景と目的
- ・ **現状と課題** (都市環境、健康、観光、安全)
- ・ **計画目標と施策の方向性**



(9月) 第2回 愛知県自転車活用推進計画検討委員会

- ・ 本日の意見を踏まえた修正
- ・ **施策の具体的な措置**



(10月以降) パブリックコメント (予定)



検討委員会委員への最終確認※

※パブリックコメント後、大幅な修正が必要となった場合には第3回委員会を開催します。



計画策定、公表

自転車利用と都市環境（まちづくり）

（1）自転車通行空間の現状

①自転車道などの整備状況

- ・ 自転車が快適に走行するために設けられた空間は、県の管理道路の1.4%に過ぎない。



自転車道



自転車専用
通行帯



車道混在

②自転車ネットワーク計画※の策定状況

計画策定自治体：名古屋市、
豊橋市、一宮市、豊田市、安城市

※自転車通行空間の整備を目的に選定された面的な路線

課題

- ・ 自転車が快適に走行するための道路の整備は進んでいない。
- ・ 路肩等で自転車通行空間を確保するため、違法駐車対策等と連携する必要がある。
- ・ 自転車通行空間の拡充のためには、市町村に計画策定を促すことも重要。

・他にサイクリングロード等があります

自転車利用と都市環境（まちづくり）

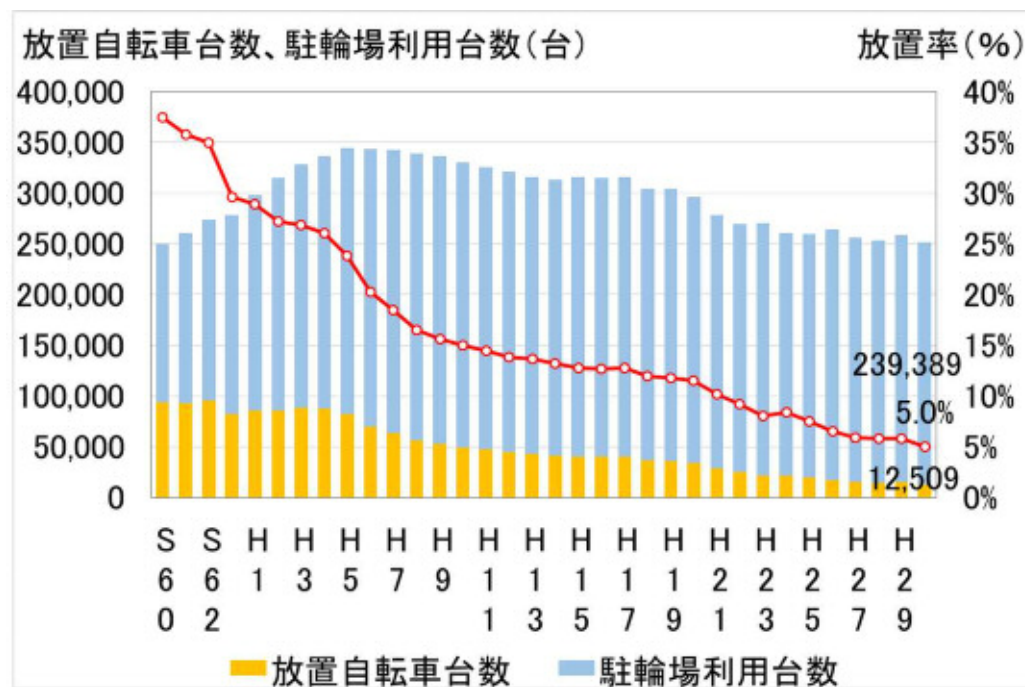
（2）交通渋滞の状況

課題

・愛知県内では自動車による渋滞が多く発生しており、その対策が必要。

（3）放置自転車の状況

・愛知県での放置自転車台数は、駐輪場の整備等により大きく減少しており、総利用台数に占める放置自転車台数の比率（放置率）も平成30年で5%となっている。



課題

・放置率は大きく減少している一方、地域的に放置自転車が多いところについては更なる対応が必要。

自転車利用と都市環境（まちづくり）

課題のまとめ 都市環境

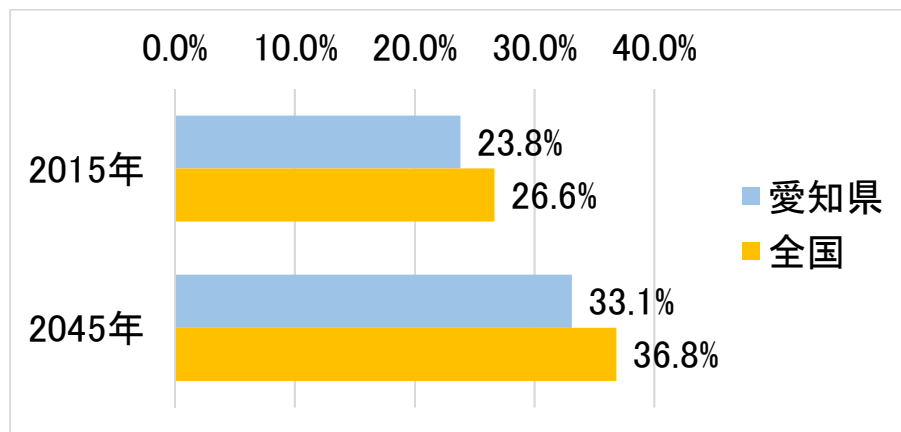
- 渋滞対策、二酸化炭素排出量の低減など、快適で環境に優しい都市環境の形成のためには自転車の活用推進が重要である。
- 現状では自転車通行空間の整備が進んでいないことから、県内の市町村と共同し、
 - ・市町村自転車活用推進計画の策定の推進
 - ・自転車ネットワーク計画の作成にむけた取り組み
 - ・自転車通行空間の整備などの取り組みが必要である。

自転車利用と健康

(1) 愛知県の実況等の状況

① 高齢化の状況

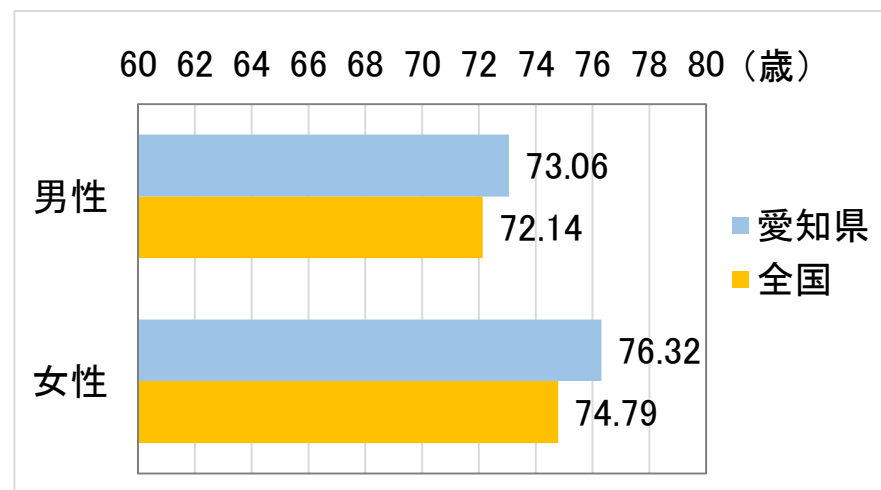
・ 愛知県の高齢化率（65歳以上人口比率）は24%と全国平均より低いものの、2045年においては高齢化比率が33%に達すると推計されている。



出典：国勢調査（2015年）、国立社会保障・人口問題研究所（2045年）

② 健康寿命

・ 愛知県の健康寿命は、男女ともに全国を上回っている。



出典：健康寿命及び地域格差の要因分析と健康増進対策の効果検証に関する研究（平成28～30年度）（厚生労働省）

課題

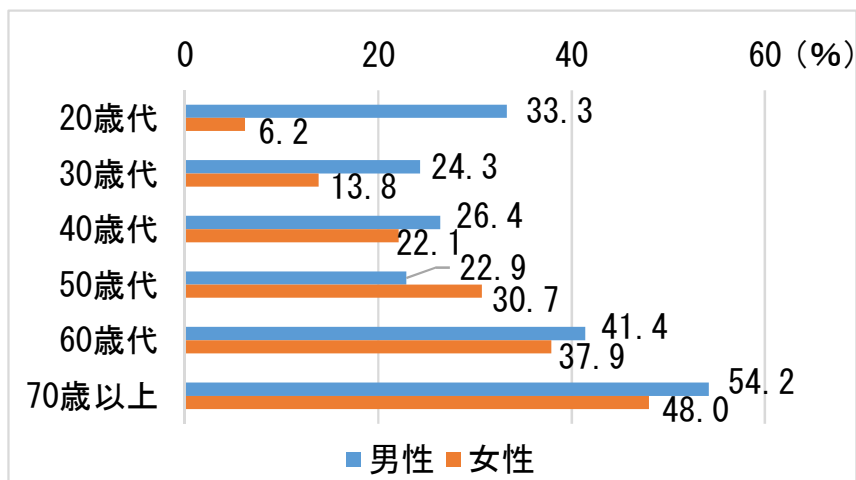
・ 健康寿命については、健康日本21あいち新計画の目標（男性75年以上、女性80年以上）の達成に向けて、今後、更なる健康寿命の延伸に向けた取組が必要である。

自転車利用と健康

(2) 運動習慣と運動強度

①運動習慣の現状

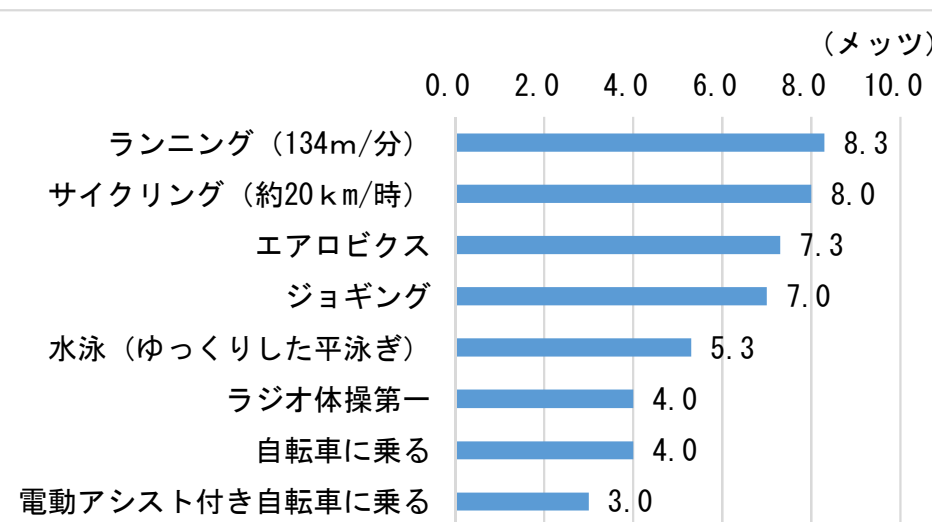
・50歳代以下の働く世代の運動習慣者の割合は、60歳代以上と比較して低くなっている。



出典：愛知県生活習慣関連調査（平成28年度）

②運動種類別の運動強度

・自転車は利用方法により運動強度が異なり、通勤など通常の自転車利用ではラジオ体操と同程度であるが、サイクリングであればランニングと同程度の運動強度となる。



出典：健康づくりのための身体活動基準2013

課題

・働く世代の運動習慣者の割合が低いため、若い世代から、日常生活の中で身体活動を増やすよう引き続き啓発していくことが必要である。

自転車利用と健康

課題のまとめ 健康

- 県民の健康寿命の延伸のため、
 - ・自転車利用の促進等により、若い世代からの運動の習慣化
- などの取り組みが必要である。

自転車利用と観光

(1) 自転車観光の現状

① 広域のサイクリングロード等整備状況

- ・愛知県ではこれまで県内の3箇所（渥美、豊田安城、知多半島）で大規模な自転車道を整備しているが、現段階で未整備の箇所もある。
- ・また、木曽川でも河川敷にサイクリングロードが整備されている。



② サイクリングルート

- ・県内の市町村で観光用のサイクリングルートが設定されているが、市町村をまたいだルートは限られている。

③ サイクルトレイン

- ・豊橋鉄道渥美線（豊橋市、田原市）において、サイクルトレインを実施しており、自転車を折りたたまずに電車に乗せることができる。



自転車利用と観光

④太平洋岸自転車道

- ・千葉県銚子市を起点として、神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、和歌山県の各県の太平洋沿岸を走り、和歌山県和歌山市に至る延長約1,400kmの自転車道構想。
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックまでの環境整備を目指し、モデルルート※として協議会を組織して看板や路面表示等の案内の充実、HPなどの情報発信の強化、魅力施設や受け入れ環境の充実に取り組んでいる。



太平洋岸自転車道（田原市、豊橋市） 統一ロゴマーク

※官民の関係者で構成される協議会において、複数の市町村に跨る広域的なサイクリングルートを設定し、走行環境や受入環境の整備、情報発信を行う。愛知県内では、太平洋岸自転車道のみが設定済み

課題

- ・自転車による広域的な周遊を楽しめる環境に向けて、サイクルトレインなどの先進的な取組事例の情報共有を図り、官民連携により取り組む必要がある。
- ・広域的なサイクリングルート形成を目指し、市町村と連携した検討が必要。

自転車利用と観光

(2) 自転車関連競技・イベントの開催 (第20回アジア競技大会 (2026/愛知・名古屋))

- ・2026年に愛知・名古屋で第20回アジア競技大会 (2026/愛知・名古屋) が開催され、トラックレース、ロードレースやマウンテンバイク、BMXレースなどの自転車競技が実施される予定である。

ロードレース



マウンテンバイク



写真出典：
東京オリンピックHPより

BMXレース



トラックレース



課題

- ・愛知県内で様々なサイクリイベントが開催されており、地域において今後もイベントを拡充していく。
- ・2026年の第20回アジア競技大会 (2026/愛知・名古屋) の開催を契機として、サイクルスポーツの普及・振興を図る必要がある。

課題のまとめ 観光

- 広域的な周遊を楽しめる環境の創出に向けて、
 - ・広域なサイクリングルートの設定と整備の促進
 - ・サイクリングルートに関し、ホームページなどによる情報発信の強化、魅力施設や受け入れ環境の充実
 - ・サイクルトレインなど、普及促進に向けた検討などの取組が必要である。

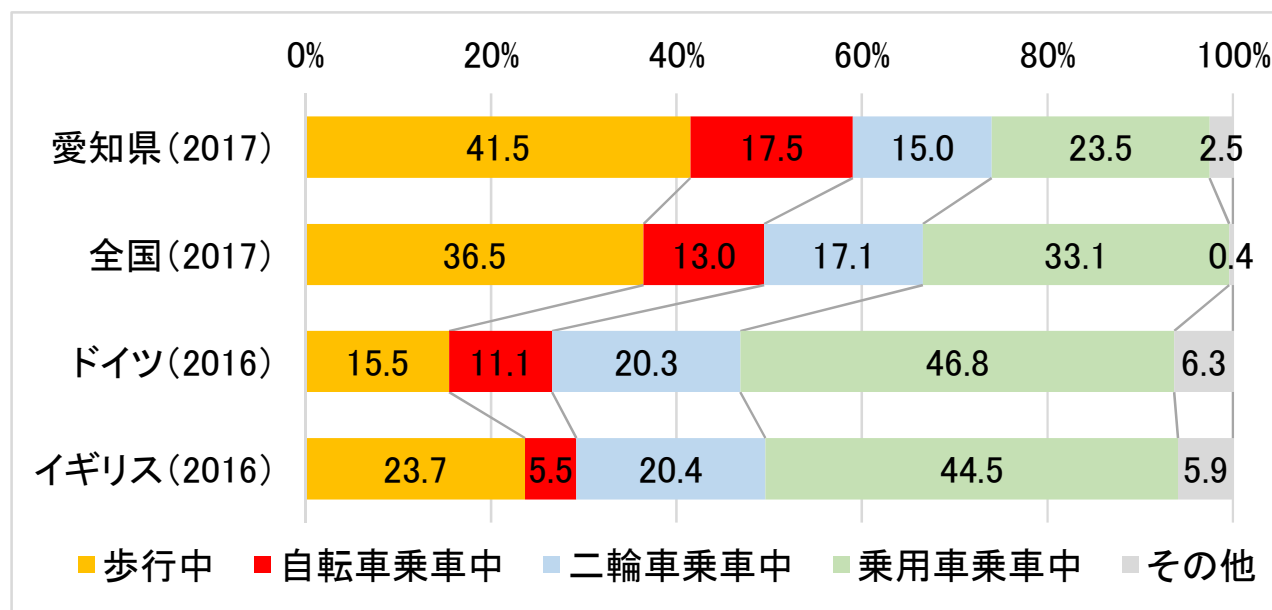
- 第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）の開催を契機として、サイクルスポーツの普及・振興を図る必要がある。

自転車利用と安全

(1) 交通事故の発生状況

- ・愛知県の交通事故死者数は減少傾向にあるものの、平成30年において189人となっており、全国の都道府県では16年連続ワースト1位。
- ・自転車死者数も減少を続けているが、36人（平成30年）の死者が発生している。

- ・愛知県では交通事故死者のうち、自転車乗車中や歩行中の比率が全国と比較して高い。
- ・また、自転車利用が盛んなドイツなどの諸外国と比較しても高い値となっている。



出典：愛知県の交通事故発生状況（平成29年中）

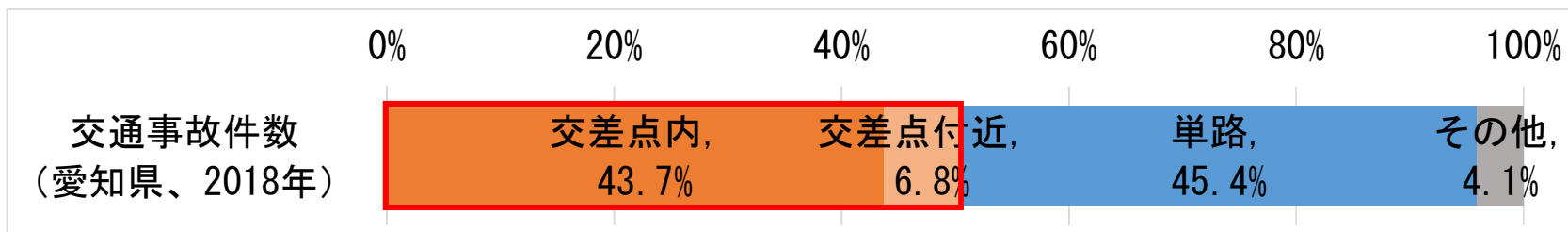
課題

- ・愛知県の交通事故死者数は全国ワースト1位であり交通安全対策が急務である。
- ・自転車が安全に安心して走行できる環境が必要である。

自転車利用と安全

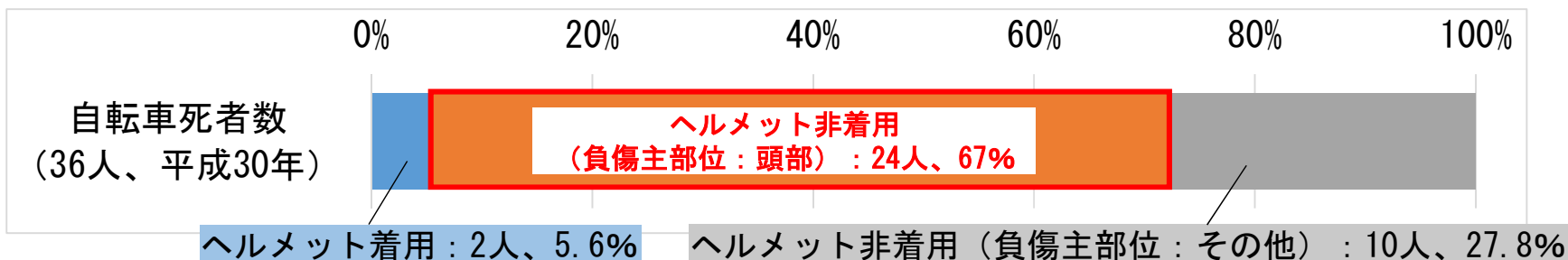
(2) 交通事故の発生状況

・交通事故の発生状況では、事故の半数が交差点内と交差点付近で発生している。



出典：愛知県の交通事故発生状況（平成30年中）

・自転車乗車中の死者のうち、ヘルメット非着用は34人、うち負傷主部位が頭部であるのは24人（全体の67%）である。



課題

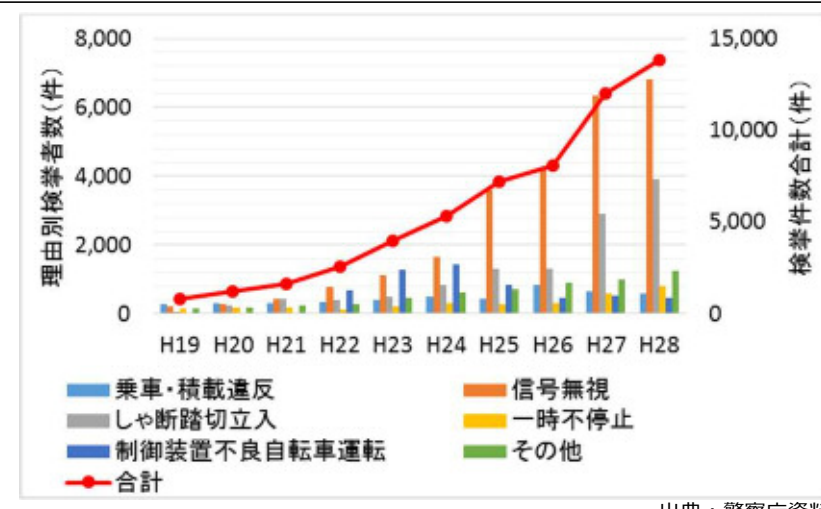
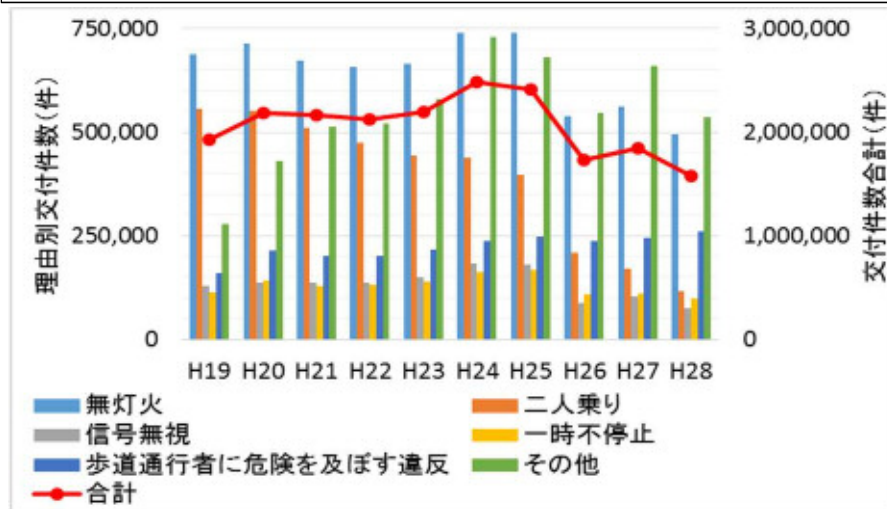
- ・交差点周辺を中心に交通安全に向けた取り組みが重要である。
- ・自転車利用者への利用ルールの啓発活動やヘルメット着用を推進することが必要である。

自転車利用と安全

(3) 自転車関連の指導件数、検挙件数

- ・全国での自転車に関する指導警告票交付件数は、ここ数年減少傾向にある。
- ・理由別では無灯火が最も理由が多いが、次いで歩道通行者に危険を及ぼす違反が多く、増加傾向にある。

- ・全国での自転車関連の検挙件数は、ここ10年で大幅に増加しており、厳罰化の傾向がある。
- ・理由別では、信号無視や遮断踏切立入が多い。



出典：警察庁資料

出典：警察庁資料

課題

- ・自転車利用者の違反が多く発生しているため、利用ルール・マナーの啓発活動の推進が必要である。
- ・また、歩道通行者に危険を及ぼす違反も多く発生しており、啓発だけではなく自転車通行空間の整備による分離も有効である。

自転車利用と安全

(4) 自転車と自動車・歩行者の事故

①自転車と自動車等との事故

・県内における自転車事故では、自転車が第一当事者となる割合が19.8%、自転車側が第一当事者でないケースも多くある。

	件数 (件)	割合 (%)
自転車第一当事者	1,530	19.8
自転車第二当事者	6,185	80.2
自転車事故総件数	7,715	

出典：ITARDA (H30)

②自転車と歩行者の事故

・自転車と歩行者の事故では、相手を死亡させる事故も発生しており、自転車側の賠償額が高額になるケースもある。

賠償額 (万円)	裁判所	判決日	被害者	被害内容	加害者・過失
9,521	神戸	平成25年7月4日	女性62歳	歩行者後遺障害	小学生(11歳)無灯火
9,266	東京	平成20年6月5日	男性24歳	自転車運転後遺障害	男子高校生通行違反
6,779	東京	平成15年9月30日	女性38歳	歩行者死亡	男性交差点進行
5,438	東京	平成19年4月11日	女性55歳	歩行者死亡	男性信号無視
4,746	東京	平成26年1月28日	女性75歳	歩行者死亡	男性信号無視

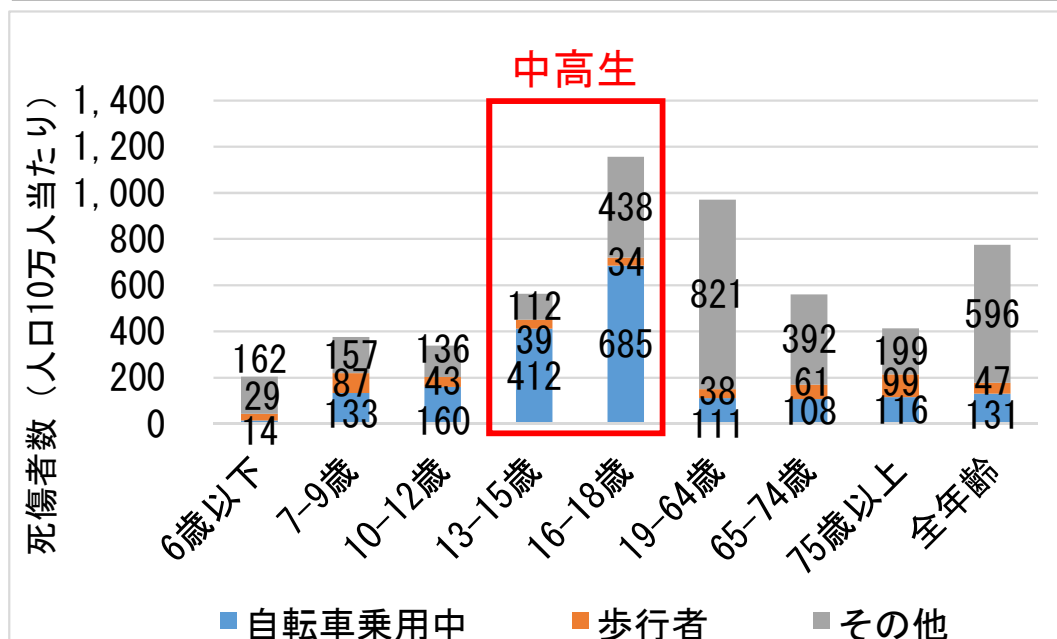
課題

- ・自転車に過失がない事故も多く発生していることから、自転車側の安全教育に加え、自動車側への安全走行の啓発等も必要である。
- ・自転車と歩行者の事故では自転車側の責任が大きく、ルールやマナーの啓発や、損害賠償保険の加入促進に向けた取組を検討する必要がある。

自転車利用と安全

(5) 中学生・高校生の事故の状況

- ・愛知県内では中高生の自転車事故が多く発生している。
- ・年齢層別の死傷者数を見ると、中学生では73%、高校生では59%が自転車利用時の事故によるものである。



出典：ITARDA

<通学時の事故件数ランキング>

●中学生の通学時事故件数（2017年）

順位	都道府県	事故件数	1日当たり平均事故発生件数
1	埼玉	149	0.75
2	群馬	145	0.73
3	兵庫	140	0.7
4	愛知	131	0.66
5	静岡	122	0.61

●高校生の通学時事故件数（2017年）

順位	都道府県	事故件数	1日当たり平均事故発生件数
1	静岡	812	4.06
2	愛知	710	3.55
3	埼玉	696	3.48
4	大阪	544	2.72
5	兵庫	525	2.63

課題

- ・愛知県内では中高生における自転車事故件数が多く発生しているため、中高生が安全に通行できる空間の整備や安全教育を推進する必要がある。

課題のまとめ 安全

○愛知県では交通死亡者数が16年連続で全国ワースト1となっており、自転車乗車中の死者も多く発生しており、対策が急務となっている。

○自転車の活用を促進するためには、交通事故の加害者や被害者とならないことが重要であり、そのため、

- ・県民の交通ルール遵守の徹底
 - ・ヘルメット等安全な通行に向けた啓発活動
 - ・自転車通行空間の整備
 - ・中学生、高校生の自転車安全利用教育
- などの取り組みが必要である。

課題のまとめ 都市環境

- 渋滞対策、二酸化炭素排出量の低減など、快適で環境に優しい都市環境の形成のためには自転車の活用推進が重要である。
- 現状では自転車通行空間の整備が進んでいないことから、県内の市町村と共同し、
 - ・市町村自転車活用推進計画の策定の推進・自転車ネットワーク計画作成の推進
 - ・自転車通行空間の整備 などの取り組みが必要である。



目標 1

自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成

施策1 自転車通行空間の計画的な整備の促進

県内市町村における自転車活用推進計画及び自転車ネットワーク計画の策定を促進するとともに、歩行者、自転車及び自動車適切に分離された自転車通行空間の計画的な整備を促進する。

施策2 違法駐車取締りの推進等による自転車通行空間の確保

自転車通行空間上の違法駐車取り締まりの推進等により、自転車通行空間の確保を促進する。

施策3 シェアサイクルの普及促進

シェアサイクルと公共交通機関との接続強化や、サイクルポートの設置促進等により、シェアサイクルの普及を促進する。

施策4 地域のニーズに応じた駐輪場の整備促進

県内市町村との連携により、地域の駐輪ニーズに応じた駐輪場の整備を促進する。

施策5 生活道路での通過交通の抑制や無電柱化と合わせた自転車通行空間の整備

歩行者・自転車中心のまちづくりと連携し、生活道路における通過交通の抑制や無電柱化と合わせた自転車通行空間の整備についての総合的な取組を実施する。

課題のまとめ 健康

- 県民の健康寿命の延伸のため、
 - ・自転車利用の促進等により、若い世代からの運動の習慣化などの取り組みが必要である。



目標2

自転車を利用した健康づくりによる「健康長寿社会あいちの実現」

施策6 サイクルスポーツ振興の推進

公道や公園等の活用により、安全に自転車に乗れる環境の創出を促進し、幅広い年齢層におけるサイクルスポーツの振興を推進する。

施策7 自転車を利用した健康づくりに関する広報啓発の推進

自転車を利用した健康づくりに関する広報啓発を推進することにより、運動習慣者の増加を図り、県民の健康寿命の延伸につなげる。

施策8 自転車通勤の促進

広報啓発により、自転車通勤等を促進する。

課題のまとめ 観光

- 広域的な周遊を楽しめる環境の創出に向けて、
 - ・広域なサイクリングルートの設定と整備の促進
 - ・サイクリングルートに関し、ホームページなどによる情報発信の強化、魅力施設や受け入れ環境の充実
 - ・サイクルトレインなど、普及促進に向けた検討
 などの取組が必要である。
- 2026年の第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）の開催を見据え、サイクルスポーツの普及・振興を図る必要がある。



目標3

サイクルツーリズムの促進による国内外から人が訪れるあいちの実現

施策9 国際的なサイクリング大会等の推進

関係者が連携して、2026年に開催する第20回アジア競技大会（2026/愛知・名古屋）において、自転車競技を実施し、サイクルスポーツの普及・振興を図る。

施策10 世界に誇り、広く利用されるサイクリング環境の創出

官民が連携した走行環境の整備や、サイクリストの受入環境の整備等により、世界に誇り、広く利用されるサイクリング環境を創出し、サイクルツーリズムを推進する。

課題のまとめ 安全

- 愛知県では交通死亡者数が16年連続で全国ワースト1となっており、自転車乗車中の死者も多く発生している。
- 自転車の活用を促進するためには、交通事故の加害者や被害者とならないことが重要であり、そのため、
 - ・県民の交通ルール遵守の徹底
 - ・安全な通行に向けた啓発活動
 - ・自転車通行空間の整備
 - ・中学生、高校生の自転車安全利用教育
 などの取り組みが必要である。



目標4

自転車事故のない安全で安心な社会の実現

施策11 自転車の点検整備の促進等

安全で安心な自転車利用環境の実現に向け、自転車の点検整備の広報啓発等を推進する。

施策12 自転車の安全利用の促進

県民の交通安全意識の向上に資する広報啓発活動の推進や、自転車利用者に対する指導・取締りの重点的な実施により、自転車の安全な利用を促進する。

施策13 学校における交通安全教育の推進

自転車を含む交通安全教育を推進するため、学校における交通安全教育の開催等を推進する。

施策14 【再掲】自転車通行空間の計画的な整備の促進

施策15 災害時における自転車活用の推進

危機管理体制を強化する等、災害時における自転車の活用を推進することにより、地域社会の安全・安心の向上を図る。